

設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学は、昭和55年4月の開学以来、「国際社会に対応し得る広い教養と豊かな情操を備えた人材を育成する」という建学の理念に基づき、教育・研究を行ってきた。

この間、平成6年の文学研究科設置、平成17年の国際コミュニケーション学部設置、平成21年の文学部総合教養学科設置、同年の国際コミュニケーション研究科設置など、時代の要請に応えながら、組織体制を着実に整備してきている。

平成21年に設置した文学部総合教養学科では、現代社会において求められているコミュニケーション能力、問題解決能力や積極性といった「知を生かす力」をはぐくむことを目標に掲げた。この目標達成のため、分野を超えたリベラルアーツ教育、コミュニケーションを重視した双方向授業、現場で学ぶフィールドワークなど、特徴的な教育課程を導入した結果、発見の喜びや仲間と共に学ぶ楽しみが得られると同時に、豊かな総合教養力が身につくとして、県内外の高等学校から評価されるに至っている。

この文学部総合教養学科は平成24年に完成年度を迎え、平成25年の春には第一期の卒業生を送り出した。そこで、現代のダイナミックな動向に対応した「生きた知識（実践知）」を身につけ、大学と実社会とを結ぶ「知」のあり方を探求してゆける人材を育成するため、本学文学研究科に「複合文化専攻」を設置したところである。

複合文化専攻は、既存の2学部及び研究科4専攻と連携・補完し合って教育研究活動を行い、もって本学の建学理念たる「国際社会に対応し得る広い教養と豊かな情操を備えた人材育成」の一翼を担いつつある。

文学研究科複合文化専攻は、リベラルアーツの文脈の中であり、「生きた知識（実践知）」を取り巻く「思想」、「論理」、「歴史」、「表象」、「自然」、「宗教」、「情報」等を網羅し、複数の分野にまたがる複合的な領域におけるテーマを研究対象とする。軸足は学位分野の文学にあるが、人文科学系のみならず、社会科学系、自然科学系の領域やその学際までのテーマを扱うことを特色としている。

実社会に還元し得る「生きた知識（実践知）」の獲得のために、複合文化専攻では教育課程を編成している。これらの科目により、修士としての質を課程で保証するとともに、幅広く深い学識の涵養を図り、研究能力や高度の専門的な職業を担うための卓越した能力を培いつつあり、平成26年度に初めての修了生が誕生する。

以上から、群馬県立女子大学は、現状において設立趣旨・目的を達成しているものと判断する。